

第53回 ふじのくに防災学講座

日時：平成24年11月17日（土）10時30分～12時00分

場所：静岡県地震防災センター

テーマ：「非常食・災害食への米粉(こめこ)の活用」

講師：米屋 武文（よねや たけふみ）

静岡文化芸術大学文化政策学部文化政策学科教授

（概要）

近年の自然災害は、地震に加えて地球温暖化の進行で熱波や豪雨に伴う洪水被害が多く発生しています。世界人口の6割超の44億人がこの20年間で何らかの被害を受けていると考えられ、社会の安定した発展を妨げる大きな要因となっています。

過去20年間の自然災害規模をみると、死者ではハイチの23万人を筆頭にインドネシア、ミャンマー、中国、インドと続く中で日本は10位以内には入っていません。しかしながら、経済損失額では米国の5600億ドルに続いて4020億ドルと世界第2位です。この損失額の殆どは阪神・東日本大震災によるものです。経済損失と比べて死者数が少なかったのは、防災に備えてのインフラの整備や国民の防災への備えが他の被災国よりも比較的進んでいる結果といえるでしょう。

災害が発生すると被災地への非常食・災害食の供給が必要となります。この非常食・災害食に求められる要件を整理するとともに、食料安全保障という観点から、わが国で唯一100%自給できる作物である米の非常食・災害食への有効活用について考えます。

